

SEA TRIAL

# MY FAIR LADY

*REGAL 33 EXPRESS*

アメリカンスタイルのオープンボートとエクスプレスクルーザーを建造する「REGAL BOATS(リーガル)」。

REGALは、アメリカのファミリークルーザーを代表するビルダーでもある。

特にエクスプレスクルーザーは、ファミリーユースのためのエクステリアやインテリアデザインが人気。

大手ビルダーとは違うアプローチでファミリーのためのクルーザーを建造する。

それが「REGAL 33 Express」の大きな魅力となっている。

text: Yoshinari Furuya photo: Kai Yukawa  
special thanks: REGAL JAPAN <http://regalboats.jp>







## ファミリークルーザーのユーザビリティを追求し続ける「REGAL BOATS」 多彩なアイデアを取り込む柔軟な姿勢と技術力が、新時代のスタンダードを生む

アメリカのボートライフに合った、人気のボートデザインと言えばエクスプレス。インエンジン&アウトドライブのパワートレインがパッケージングされたオープンスタイルのエクスプレスは、コストパフォーマンスも高く、多くのアメリカ人に愛されてきた。

マリーナや波のないカナルに隣接したセカンドハウスからエクスプレスで出港。ファミリーで海水浴や、トーチングを楽しみ、キャビンで一夜を過ごすクルージングライフは、アメリカの中流家庭の憧れのライフスタイル。その先頭に立ち、MERCUISERというエンジンサプライヤーを中心としたグループの圧倒的な規模と開発力で、常にアメリカンファミリーボートのベンチマークとしてリードをしてきた2大ビルダーが「SEA-RAY」と

「BAYLINER」。これらBRUNSWICKグループの誇る北米を代表するビッグビルダーに対して、エクスプレスを建造する新しいビルダーの多くが消えていった。他のタイプのボートを建造するビルダーもエクスプレスクルーザーにチャレンジしては、その多くが数年でラインナップから消えてきた。

そのエクスプレスビルダーの中で、「REGAL (リーガル)」だけは、他のビルダーとは違う個性的なユーザー目線のデザインで、安定したセールスを続けている。その存在は、常に大手ビルダーと比較されることで、逆に大手ビルダーでは出せない個性と輝きを放ってきたようにも思える。そして、気がつけば大手ビルダーは、世界的なトレンドに合わせてヨーロッパスタイルのオープンボートや大型のセダスタイルヘシフトし、オーソドックスな



前後に倒れる背もたれと、その脇に設置された左右2つのカップホルダー。その前方の、背もたれが前後に倒れるソファにも2つのカップホルダー。コックピットのギャレーにはコンロではなくBBQグリル。ファミリーには嬉しい装備が、標準で搭載されている。

小型のオープンボートやエクスプレススタイルのファミリークルーザーを建造するのは、REGALや、その他の小規模なビルダーだけとなった。

\*

1969年、Paul KuckとCarol Kuckにより設立された「REGAL Marine Industries」。最初のモデルは17フィートのトライハル、14フィートのスキーボート、そして21フィートのカディ。それらのボートは時代にマッチしたファミリーボートとして受け入れられ、新興ビルダーとしては異例の成功を収めた。

2年後の1971年には、フロリダ州オーランドに新たな大規模施設を開設し、生産台数を増やして一気に成長。それから40年、何度か訪れたアメリカ経済の混乱をも乗り越え、未だファミリーカンパニーとして安定した経営を続けている。



REGALの強みは、大企業とは違う、小回りのきくファミリー企業であること。経営陣や設計者自らボート遊びをし、大手ビルダーやデザイナーが作り出すトレンドを取り入れながら、さらに使いやすいアイデアを果敢にデザインに取り入れているところ。それは、常にカスタマーの中心であるファミリー目線。REGALのターゲットであるファミリークルーザーとして、徹底的に特化できているところだろう。そのフィロソフィは今回の「REGAL 33 Express」にも十分に注がれている。

\*

「33 Express」が、REGALの正規ディーラーであるヤマハ藤田が運営する須磨ヨットハーバーに降ろされた。そのカラーデザインは黒いハルに白いラインテープのトラディショナルなもの。いかにもREGALらしい落ち着いたカラーだ。





栈橋から、前後長1,435mmもある広いスイミングステップに乗りこむ。スイミングステップには、ゴムポートやチューブなどを搭載することができ、また海水浴では、子供達の飛び込み台として、メインステージとなる。

アフトデッキのエントランスはスターボード側。トランサムはポートサイドのハルまで続き、その上部にはサンベッドを兼ねたソファ。背もたれを前方に傾けると、前後800mm、幅1,890mmのサンベッドになる。この後ろを向いた大型のソファは、クルージング中には特等席となる。

前方のソファの背もたれを前に倒し、後方を向いて座れば、トランサムのソファと迎え合わせのダイネットに。また、背もたれを後方に傾ければ、ベンチシートと一体のL字ソファに変化する。ヘルムシート後方には、アクセスを邪魔しない三角形のアウトドアギャレー。ミニシンクとVITRIFRIGOのリフリジェレーター、KENYONのBBQグリルがポートライフを盛り上げる。

ヘルムステーションはベンチシート。コックピットは、使いやすい完成されたレイアウト。センターには、VOLVO PENTAと共同開発したGARMINのグラスコックピット。世界的に人気のFUSIONのオーディオにはBluetoothで音楽を入力することができる。パウデッキへのアクセスは、スライドドアと一体のステップを上がり、フロントウィンドシールドのセンターから通るオーソドックスなもの。パウデッキには大型のサンタンベッド。2分割でリクライニングできる。パウの作業デッキも広くLEWMARのウィンドラスはフットスイッチも装備され、アンカリングを安全に行うことができる。

キャビン入り口のスライドドアを開け、4段のラダーステップを降りるとダイニングを兼ねたサロン。フロアは傷を気にすることのないシンセティックフローリング。スターボードサイドには6人が座ることができる、ゆったりとしたL字ソファ。ポートサイドには個室のトイレ&シャワーとミニギャレー。

ギャレーはコンパクトではあるが、KENYONの2口電気コンロと十分な



クイーンサイズよりも広いマスターベッド。フロアとの段差が小さいので、動き回る子供でも安心。ゆったりと川の字で寝ることができる。天井が低く潜り込むようなベッドスペースやトイレ、ギャレーやサロン。ハルサイドの大型ウィンドウが、キャビンに光を届け、デイユースのキャビンを明るく快適なプライベートルームに変えてくれる。



大きさのシンク。ISOTHERMの冷凍冷蔵庫は停泊時に使いやすいフロントローディング。もちろん電子レンジもあるので、パーティー料理やファミリーの食事を作るのに十分。サイドの大型ウィンドウやパウのトップライトは明るく、ミッドシップのベッドルームも、パウのVバースにも、壁を設けないワンフロアにすることで実際の広さ以上に開放的。ファミリーを前提としたオープンなレイアウトだ。

Vバースは奥行き1,200mm、幅1,540mmほどのベッドルーム。大人にはやや小さいが、子供には人気の隠れ家的な空間。ミッドシップのベッドの長さは1,959mm、幅は1,790mm。クイーンサイズよりも広い。クッションを敷いたところ以外も含むフロアスペースは、長さ2,398mm、幅は1,894mmとキングサイズに迫る広さ。見た目以上にゆったりとしている。ベッドから落ちることのないミッドシップのベッドスペースは、小さな子供と川の字に寝るのにぴったりの空間かもしれない。

\*

VOLVO PENTAのガソリンエンジン、V6-280を始動する。アウトドライブ2基をジョイスティックでコントロール。栈橋から真横に離れ、狭い港内を自在に移動する。港を出ると、明石海峡に向け加速する。1,000rpmでは5.8ノット、2,000rpmでは8.2ノット、3,000rpmでは10.3ノット、4,000rpmでは21.5ノット、5,000rpmでは32.5ノット、5,500rpmでは36.2ノット、TOPの5,850rpmでは39.0ノットを記録。デッキの高いファミリークルー

ザーのスタイリングでありながら、デッドライズ21°のディーブVハルが波を切りソフトライド。重心は高めだが、大きな弧を描く高速ターンでは、安定した姿勢で、爽快な高速ライディングが楽しめた。



\*

REGALのポートに魅かれる理由。それは、ファミリーボートを想定したコンセプトがブレていないところ。ファミリーのための割り切ったエクステリアインテリア。常識にとらわれずユーザーの快適性を優先するコックピットやキャビンのデザイン。そして、広さ、装備、走りの質……。その全てはファミリーの笑顔のために。ビルダーの明確なフィロソフィが感じられる「REGAL 33 Express」、ファミリーに寄り添う心地いいボートの登場だ。P.B.

#### REGAL 33 Express

全長 10.54 m  
全幅 3.2 m  
喫水 0.9 m  
重量 5.73 ton  
エンジン 2×VOLVO PENTA V6-280  
最高出力 2×280 HP  
燃料タンク 568 L  
清水タンク 136 L

問い合わせ先 リーガルジャパン TEL: 079-322-8800  
<http://regalboats.jp>



YouTube